

山口大学医学部附属病院 緩和ケア研修会報告

山口大学医学部附属病院
緩和ケアセンター事務局

令和6年11月9日(土)に山口大学医学部附属病院主催緩和ケア研修会が、長門総合病院との共催で、山口大学医学部医明館3階講義室において開催されました。

「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」において、「すべてのがん診療に携わる医師、及び緩和ケアに従事する医療従事者が、緩和ケアについて基本的な知識を習得すること」が目標と掲げられています。この目標達成のため、国が定めた「緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、統一的なプログラムによる研修会を実施しています。

今回は、9名のファシリテーターを迎え、24名の医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師など多職種の参加がありました。

当院緩和ケアセンター副センター長山縣裕史医師の開会挨拶に始まり、研修は講義だけでなく、グループで行う事例検討、医療従事者役、患者役、観察者役を交替で演じるロールプレイも行われ、どの形式においても様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができ、有意義な研修会となりました。

《研修会風景》

ロールプレイ



講義



グループワーク

